

## 名木物語⑩ 「なんじゃもんじゃ」と呼ばれて

### ヒトツバタゴ

82

個人宅 赤堤 1-19

60年前に明治神宮外苑から苗をゆずり受け、庭の一角に植えたそうです。「なんじゃもんじゃ」という名前の分からない木の通称でも呼ばれ、珍しい木だということが伺えます。花は4月下旬頃に最大の見頃をむかえ、観賞者でにぎわいます。初夏間近でありながら白雪を抱くような姿は圧巻です。

同じ頃に花が咲くハンカチノキも珍しい木で、お庭の左右で咲き競います。



## 名木物語⑪ 祖師谷小学校のヒマラヤスギ

### ヒマラヤスギ

83

区立祖師谷小学校 祖師谷 3-49

昭和17(1942)年の開校当時はマツの木ばかりだったそうです。現在大木となっているイチヨウ、サクラ、コブシ、ヒマラヤスギなどは地域の人たちが寄付してくださった苗木を当時の5、6年生がリヤカーで運び植えたものとのこと。

ヒマラヤスギは美しい樹形の大木に育ち、児童たちに親しまれ、「ぼくらのそしがや」という歌にも登場します。



# 暮らしと樹木

古くから私たちの暮らしに密接に関わってきた木が、今も身近なところで見られます。

## 【雑木林】

石油、ガス、電気などが普及する以前は、雑木林から木を伐（き）って薪や炭を作って燃料にしていました。落ち葉や枝も燃料にしたり、堆肥を作って田畑の肥料にするなど、昔の人にとって雑木林は生活のためになくてはならないものでした。

### コナラ・イヌシデ (雑木林)

等々力不動尊  
等々力1-21



59

一般に武蔵野の風景を代表するコナラ、クヌギの雑木林ですが、場所によって少し構成種が変わります。

ここの雑木林では、コナラ、イヌシデが多くあります。



### コナラ・クヌギ (雑木林)

都立蘆花恒春園  
粕谷 1-20



60

文豪徳富蘆花が明治 40 (1907) 年から 20 年間田園生活を楽しんだ雑木林です。手入れが良く明るく見通しの良い雑木林です。

コナラよりクヌギが多めの林で、イロハモミジなども生育し、紅葉も楽しめます。

## 【雑木林の木】

コナラ

58

都立祖師谷公園 上祖師谷4丁目



枝葉を四方に伸ばし、丸く美しい樹形が特徴です。関東の雑木林に多く生育していて、材は薪炭材、シイタケのほだ木などに使われ、葉、実、樹皮は煮だして染色に使われます。



クヌギ

砧3

都立砧公園内 区立世田谷美術館 砧公園1-2

高さ 26.6mの大きなクヌギで、世田谷美術館の建物はこのクヌギをいろいろな方向から眺められるよう設計されています。コナラとともに関東の雑木林に多く生育している樹種です。





## イヌシデ (群)

21

浄真寺 奥沢 7-41



三仏堂の裏手に点在して、中には 20mを超える大きなイヌシデもあります。果穂（実が集まって穂になっているもの）が四手（玉串やしめ縄につける白い布や紙で作ったもの）似ていることから名づけられました。材は薪や炭の材料に使われます。



## アカシデ

2

駒繫神社 下馬 4-27

蛇崩川緑道にある朱色の駒繫橋のたもとにあります。高さが 20m 近くあり、これほど大きいアカシデは区内では数が少ないです。イヌシデと比べて新芽が赤いことが名前の由来で、4 月初旬には紅色を帯びた花を咲かせます。イヌシデと同じく関東地方の雑木林に生育する木で薪炭材などに使われます。



## 【その他、暮らしに関わる木】



ムクロジ

90

恵泉女学園 船橋 5-8

区内では珍しい木です。果皮に「サポニン」と呼ばれるよく泡立つ成分を含むことから、昔は洗濯や洗髪に使われました。実の中には直径 1cm ほどの黒くて堅い種子が入っていて、数珠や羽根つきの羽根の材料になります。



ヤマグワ

101

区立祖師谷六丁目広場 祖師谷 6-33

区内でもかつては養蚕が行われ、カイコの餌とする桑の葉を育てるため、桑畑が広がっていました。桑はヤマグワまたは中国原産のマグワが使われました。

枝張りが 15m前後ある枝ぶりのよい木でしたが、カミキリムシによる被害や、それに伴う落枝防止のための剪定によって、現在は小さな樹冠になっています。



## 【食べられる木の実】

スタジイ (群)

69

区立若林公園 若林 4-34



公園全体に多数のスタジイが生育しています。どんぐりは椎の実ともいわれ、アクが少なく、九州の一部のお祭りでは炒った椎の実を売る夜店が出ることもあります。殻斗（どんぐりを包む殻）は帽子形ではなく全体を覆う形です。



トチノキ

砧7

都立砧公園 砧公園 1-1



高さ 25.4mの大きなトチノキです。実は丸くて熟すと3つに割れて、中にクリに似た種子が入っています。これがいわゆる「栃の実」で、アク抜きして栃餅などが作られます。





## ケンポナシ

56

満願寺 等々力3-15



区内では珍しく、またこの樹種では大きな木です。T字型の果軸（実の付いている柄の部分）の両側に7～10mmの球形の実がつく、面白い形をします。実ではなく膨らんだ果軸の部分が甘く、ナシのような味がします。



## カヤ

29

慶元寺 喜多見4-17



門をくぐってすぐであり、参拝者をむかえてくれるカヤの木です。カヤには雌雄がありますが、このカヤは雌の木です。

昔は種子の油を搾り、食用や灯火用に使われました。また子どものおねしょを治すともいわれ、実を拾って帰る人がいたそうです。



イチヨウ

14

教学院 太子堂 4-15

樹形が美しく、苔むした幹が歴史を感じさせる木です。この木は雌の木で銀杏がたくさん実ります。銀杏は煎ったり、茹でたりして食べられますが、食べ過ぎると中毒になります。境内では、名木のチシャノキ(p.13)も見ることができます。



喜多見小発祥地の  
イチヨウ

喜多見中部町会集会所  
喜多見 4-13

番 2

銀杏のなる雌の木で樹形も美しいイチヨウです。ここは禱善寺跡地で明治6(1873)年に禱善寺を仮校舎、知行院を仮分教場として研精学舎ができました。その後、喜多見尋常高等小学校となり、他の小学校と合併して砧尋常高等小学校となりました。そして、明治20(1907)年に現在の砧小学校の地に移転しました。喜多見小学校は砧小学校から分かれて昭和47(1972)年に開校しました。よって、喜多見小学校発祥地であり、砧小学校発祥地でもある場所です。

